



全日本自治団体労働組合  
北海道本部  
〒060-0806 札幌市北区  
北6西7 北海道自治労会館  
電話 011-747-3211  
FAX 011-700-2053  
編集・発行 佐々木直人

# 2017 春闘討論集会



全国から500人(北海道から10人)が参加し、2017春闘方針を議論=12月12~13日

## 賃上げ、格差是正を基本

### 連合春闘に結集

自治労春闘討論集会は12月12~13日、東京都で47県本部約500人が参加し開かれた。主催者を代表し、川本中央執行委員長が、今春闘について「連合は2017春闘で賃上げ、格差是正の流れを継続し、前進させることを基本に据えている。自治労も地域公共サービスを担う産業

別労働組合として連合春闘にしっかりと結果を出していかなければならぬ。自治労は、2017春闘で従前の『公務員賃金の改善』『地方財政の確立』『格差是正と公正なワーカーの確立』の取組みに加え、『よりよい地域医療・福祉にむけた取り組み』を重点課題に掲げ、超少子・高齢化、

人口減少社会を迎える中、持続可能な社会を作り上げるために地域の医療、福祉体制を守っていく取り組みを進める。今日の医療や福祉が直面する課題は、2018春闘以降も展望しながら進める」とあいさつした。

記念講演では、山口義行・立教大学経済学部教授より「安倍政治への批判と今後の日本経済の見通し」と題した講演を受けた。講演で山口教授からは、自らが取り組むを進めている中小企業サポート支援活動に触れながら、「経営者に対して時代を読み取る『読む力』、時代に合わせた自分たちが求められるものを探る力、地域の外とつながっていく『つなぐ力』を育てることが重要」とし

ながら、「労働組合の活動にも共通する事である」と述べた。その上で、特に「読む力」については「政府の発表する月例経済状況では景気は緩やかに回復している」とされるが、実際には緩やかに下降している。所得配分を変えていかなければ大企業と中小企業の差は埋まっていけない。労働組合は、所得の再配分にむけて頑張る事が重要である」と話した。

最後に川本中央執行委員長が「各単組において今春闘で取り組む課題を明らかにし、実践していく」とまとめた。

2017道本部春闘討論集会  
とき 1月10日(火) 10:00~  
ところ 札幌市・自治労会館  
基調講演 「分断社会を終わらせるために~地方自治体で働く者が何をすべきか~(仮称)」  
講師 井手 英策  
慶應義塾大学経済学部教授

2017年度政治集会  
とき 1月9日(月) 14:00~  
ところ 札幌市・自治労会館

機関紙「自治労北海道」も今年最終号となる。春闘、自治労の議席を死守した参院選、熊本県や北海道が大きな被害を受けた自然災害、安全保障関連法の強行採決、そして、カープの優勝など忘れようにも忘れられない年となった。

## 朝風

次号は新年号、恒例の「おいしいものプレゼント」全道からおいしいものを提供いただきました。お楽しみに。また、1面は西年大集合、ご協力いただいた多くの組合員の皆さんに感謝です。来年は多くの職場を紹介していきます。

## 沈黙こそが、今の世界



会場を埋め尽くす参加者=12月8日、札幌市自治労会館

12月8日、札幌市で「War is over 12・8北海道集会」が開かれ、約350人が参加した。当集会は、過去の悲惨な戦争の歴史を継承し、戦争を繰り返さないために、毎年開催されている。フォトジャーナリストの安田菜津紀さんは「写真で伝える世界の今」と題し、カンボジアやヨルダン等の難民キャンプ

を、写真をもとに講演し「写真では直接的に命を救うことはできない。もしも医者やNGOで働く命を救えていたら、多くの命を救えていたら、多くなると悩んだ経験がある。そんな中、これに役割を担います。NGO職員は、ここに踏み込んで、人に寄り添って、ずっと活動することができるとも思えない。ただどこかで起きていることを世界に発信するのは難しい。安田さんは、世界に発信することができると現地の声を紹介した上で、「一人の人間が全部の役割を果たすことはできない。少しずつ、で

きることを、その役割を持ちより合うことが大切だ」と語った。さらに、「私たちが沈黙してしまつたら、世界はどうなるか。その沈黙が集まった世界こそ、いまの世界である。一番身近な役割は、沈黙をしないこと、声を上げていくこと、それを共有して伝えること。どんな声を持ちよれるかを一緒に考えていこう」と訴えた。

最後に、林共同代表は「戦争法で、戦争に対するハードルが低くなつた。このままでは、日本も難民を生じさせる国となる。取り組みを強化しよう」と呼びかけた。

## 地方本部別春闘討論集会

- 【石狩】 1月20日(金)~21日(土) 余市町・水明閣
- 【後志】 同上
- 【上川】 1月20日(金)~21日(土) 旭川市・トーヨーホテル
- 【留萌】 1月21日(土) 羽幌町・町立中央公民館
- 【宗谷】 1月21日(土) 枝幸町・コミュニティセンター
- 【渡島】 1月21日(土) 函館市・ホテルテトラ
- 【檜山】 同上
- 【空知】 1月28日(土) 岩見沢市・市民会館
- 【胆振】 1月27日(金) 苫小牧市・市職員会館
- 【日高】 1月28日(土) 新ひだか町・公民館
- 【網走】 1月14日(土)~15日(日) 紋別市・ホテルセントラル
- 【十勝】 線別での開催(2月実施予定)
- 【釧根】 1月14日(土)~15日(日) 釧路市・キャッスルホテル

### JICHIRO スケジュール

12月  
21日(水) 道政への要求と提言(札幌市・道庁) 連合北海道地方委員会(札幌市・ガーデンパレス)  
28日(水) 道本部旗納め

1月  
4日(水) 道本部旗開き  
9日(月) 道本部政治集会(札幌市・自治労会館)  
10日(火) 道本部春闘討論集会(札幌市・自治労会館)

道本部ホームページ  
自治労北海道 ユーザー名: minnade  
組合員専用ページは パスワード: danketsu2013

### 年末・年始もしもの自動車事故の場合

☆じちろうマイカー共済にご契約の方は

《事故の受付》  
0120-0889-24

《ロードサービス》  
0120-889-376

☆自治労自動車共済にご契約の方は

《事故の受付・ロードサービス》  
0120-810-625

◆報告する内容◆  
①契約者名 ②運転者名 ③契約番号(もしくは車両ナンバー) ④事故発生日時・場所 ⑤相手方の名前・連絡先電話番号 ⑥事故状況 ⑦その他

※1 ロードサービスをご利用の場合もまずは事故受付センターにご相談下さい。(独力で手配した場合は本人負担となります)  
※2 じちろうマイカー共済と自治労自動車共済では事故受付先が違います。左記☆印の契約先にお電話下さい。

# オキナワ平和の旅

## オキナワの「現在」を学ぶ

12月7～9日、「自治労青年女性オキナワ平和の旅」が開かれ、全国から131人、うち北海道から4人が参加した。



辺野古基地周辺のフェンスに激励のリボンなどを付ける参加者



高江で抗議活動をする様子



集約する佐藤中央本部青年部長

集会では、大城紀夫・連合沖繩会長、中村元気・九州沖繩平和教育研究所代表から沖繩の現状や課題についての講演や、高江・森が泣いているのDVDを鑑賞した。また、高江での激励行動や嘉数高台・ガマ見学などで、オキナワ戦での悲惨な戦争の「過去」、米軍基地があることで多くの

問題を抱えたオキナワの「現在」を学んだ。佐藤中央本部青年部長は「辺野古の座り込みデモの横に『勝つ方法はあきらめないこと』と書いてあった。あきらめないことで10年間辺野古新基地建設を阻止してきたように、私たちもあきらめず、職場でも社会でも声を上げ続けよう」とまとめた。



ひめゆりの塔に千羽鶴を届ける参加者

「現地に行けたことに感謝。私たちが生きたいように生きる。それができないことがどんなに恐ろしいことか。実際に71年前のオキナワで何があったのか。このことを、現地に行き、見て、触れて、話を聞く機会をいただけたことに本当に感謝しています。」

羅白町職労 山口樹里さん

参加者の感想  
現地に行けたことに感謝

平和について伝える  
知内町職 佐藤剛さん

高江の抗議活動や辺野古基地など現地だからこそその雰囲気を感じてきました。日本人全体の問題として、あらためて平和について仲間へ伝え、一緒に考えていきたい。

### 留萌地本臨時・非常勤等職員学習会 仲間を増やしたい



熱心に報告を聞く参加者

11月18日留萌市で、臨時・非常勤等職員の組織強化・拡大にむけた取り組みとして留萌地本本部主催で学習会を開き、20人が参加した。道本部臨時・非常勤等職員連絡会議の幹事に選出している留萌市労連・嶋恵美さんの呼びかけがきっかけとなり開催に結びついた。

学習会では、道本部の吉田オルグを講師に迎えて、14日の会期末を控え、政府は、年金カット法案、カジノ法案を無理強いして通過させようとしている。TPPに引き続き、強引な国会運営が続く。安倍総理が、年末に真珠湾を訪問すると言っているが、その真意が分からない。第二次世界大戦で、日本はアメリカとだけ戦った訳ではない。中国をはじめ多くの国を敵に回した戦争だった。それにも関わらず、米国のいままさらの和解を前に押し出している。今回の訪米が、米国の完全な属国になることの決意ならぬことを、切に祈る。解散総選挙：三度続けたの極寒選挙の可能性がある。(12/12、東京への機内にて)

### 「医療」に興味を抱いて欲しい



職場だより

市立函館病院では地域社会貢献活動の一環として、毎年市内の中学生を対象とした「外科手術体験キッズセミナー」を開催しており、今年で8回目となります。

当院は、万延元年(1860年)に箱館医学所として開設され、西洋の外科手術をいち早く取り

入れた高松凌雲が頭取(病院長)を務めたこともある日本でも有数の歴史をもつ病院です。昨今、医師不足が叫ばれる中、一人でも多くの子どもたちが医師の仕事に触れ、人の命の尊さを知り、医療というものに興味を抱く機会となればという思いでこのセミナーを計画

し実施しています。セミナーでは、実際の医療機器を使用した検査や模擬手術体験など、医療の現場を実感できるような体験型プログラムを行っています。

セミナー終了後は、参加した子どもたちにアンケートをお願いし感想を聞く中で、「緊張したが楽しかった」「手術は難しかったが、将来医師になりたいと思った」など、医師の偏在が現在もある中

中学生が内視鏡外科手術トレーニング用医療器具操作を体験



集会には約100人が参加した=12月1日、札幌市

### 男女平等参画社会 トップの本気度で変わる

12月1日札幌市で、NPO法人北海道地域調査会主催の「第6回市民公開講座」が開かれた。基調講演として、「生きがいから生き方の時代へ、個の時代を生きる」と題し、平岡祥孝さん(札幌大学社会学部地域社会学科教授)が講演した。平岡さんは「人を基盤にする経営

12月11日に発生した「函館山口1Fウェイにおける索道人身傷害事故」について、国土交通省の担当者から説明を受ける。14日の会期末を控え、政府は、年金カット法案、カジノ法案を無理強いして通過させようとしている。TPPに引き続き、強引な国会運営が続く。安倍総理が、年末に真珠湾を訪問すると言っているが、その真意が分からない。第二次世界大戦で、日本はアメリカとだけ戦った訳ではない。中国をはじめ多くの国を敵に回した戦争だった。それにも関わらず、米国のいままさらの和解を前に押し出している。今回の訪米が、米国の完全な属国になることの決意ならぬことを、切に祈る。解散総選挙：三度続けたの極寒選挙の可能性がある。(12/12、東京への機内にて)

### 忙中余話

道本部に来たが、よく考えると関西から4回目を迎えた。道南育ちの自分にとっ、札幌の冬は耐え難い寒さで痛みさえ感じるが、道北や道東出身の専従者にとっては、札幌の冬は暖かいらしい。札幌の冬は暖かいらしい。同じ北海道でも、エリアによって気候や文化に大きな違いがある。実は、私には道南特有の言葉のなまりがあるらしく、周りの人たちは全員がそう感じているらしい。地元にいるときは極めて標準語に近いと思いついて、(森下 元)